

学校にエアコン設置

決断。

「やらない選択肢は、
もはやない」 郡和子市長



すげの直子

花木則彰

庄司あかり

嵯峨サダ子

高見のり子

ふるくぼ和子

市民が声あげ、議会と市政が動いた。

「災害級の暑さ」が続いたこの夏。学校の普通教室や職員室にはエアコンがなく、例年以上の過酷さでした。今議会では、すべての会派が学校へのエアコン設置をとりあげました。これまでなかったことです。日本共産党は、来夏まで間に合わせるよう求めました。

本ニュースでは、仙台市議会第3回定例会(9月4日～10月5日)の日本共産党の論戦をご紹介します。

ふるくぼ和子議員「ある中学校では、エアコンのある保健室に、体調不良を訴える生徒がつぎつぎと訪れ、ベッドが足りず長椅子やありとあらゆる場所に対応。野戦病院のようだったとのことだ。市は、設置の検討を進めるというが、検討した結果、つけないという結論はありえない」

郡和子市長「やらないという選択肢は、もはやない」
(9月10日・代表質疑から)

すげの直子議員「市は、つけると決断したのだから、あとはどれだけ早くつけるかだ。来年夏に間に合わせるべきだ」

教育局「早急に取り付けたいが、機種を検討や財源など課題の整理に、いましばらくかかる」

すげの議員「他の自治体は、来年設置にどんどん踏み切っている。来年からとなれば、子どもたちも希望をもって待てる。がんばってほしい」
(9月21日・決算委員会質疑から)

高見のり子議員「2017年度決算では、市の財政は約36億4000万円の大きな黒字になった。基金残高は、総額1530億円だ。この財政力があれば学校へのエアコン設置は、十分可能だ」
(10月5日・本会議討論から)

長年の訴え、 実を結ぶ。

日本共産党

■2012年9月議会（一般質問）
…教室を視察して回り、実情を訴える。「午前9時半で32℃。蒸し風呂のようだった」

■2014年9月議会（決算特別委員会）…「部活動で熱中症になり、具合の悪くなる生徒、教師もいる。もう待てないという切実な声だ」

■2016年9月議会（一般質問）
…「夏休みあけ、先生方が朝7時過ぎに校舎内のすべての窓をあけ、扇風機をつけてまわっていた」

■2016年10月議会（決算特別委員会）…「市内小中高校（約200校）のうち、築40年超は75校。大規模改修の際にエアコンを整備すれば、財政負担も大きくならない」

■2017年6月議会（一般質問）
…「職員室のコピー機の表示に『異常高温環境にあるので使用環境に配慮を』と出るほどだ」

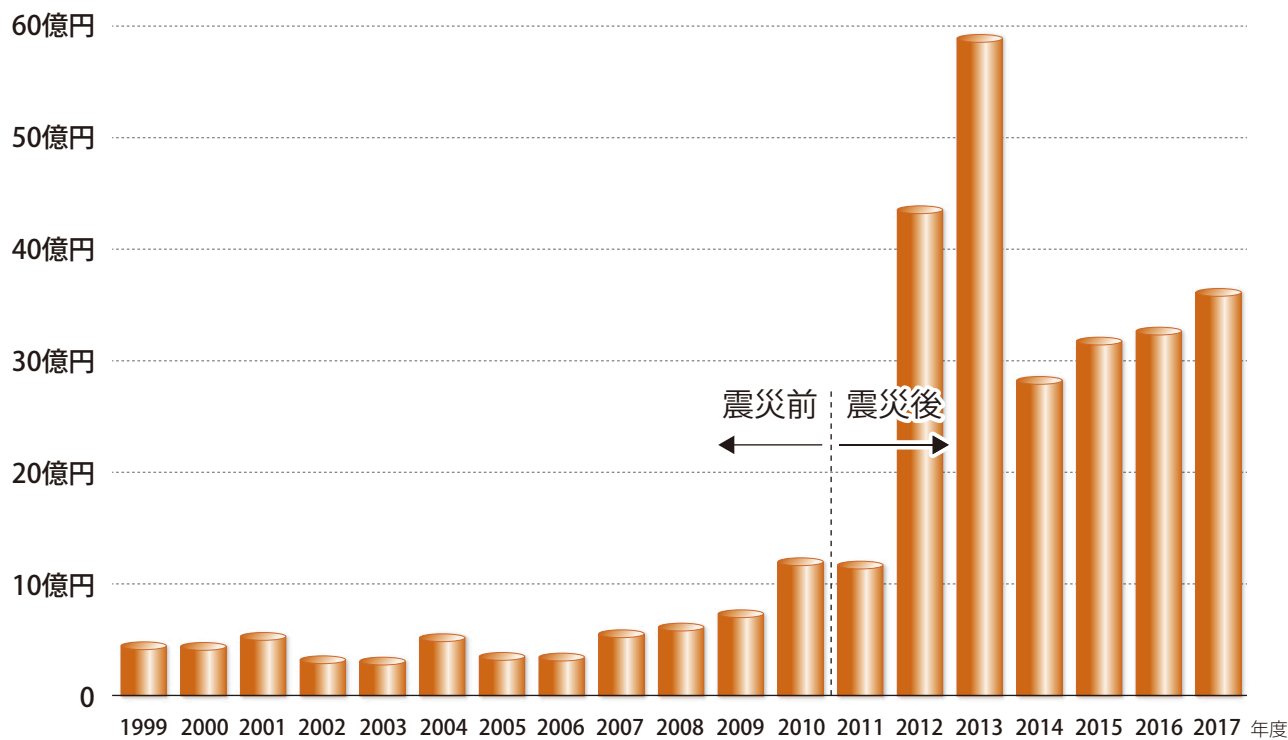
■2018年6月議会（代表質疑）
…「教職員は夏休み中も、毎日エアコンのない学校で仕事をしています。市長に、ぜひ教室に出向いて体感してほしい」

市民のほうへ。改革の軌道



子どもたちに与えるもの——。ほっこり笑う家、安心するまち（市内公園で）

【市財政の黒字額の推移】（実質収支）



黒字を市民に振り向けて

すげの直子議員「震災後（2011年度以降）、仙台市の財政は好転している。基金（積立金）の総額は、全国約1700ある市区町村の中で、大阪市について2番目に多い。財政規模の比率では、政令市で全国トップの額だ。福祉や教育のための予算を抑え、市民に必要な事業にお金を回さず、ため込んできたというのが、これまでの市政だった。都市長には、福祉の向上の立場にしっかりたって市政運営にあたってほしい」

奨学金 市が返還支援の方針

仙台市は来年度から「経済成長戦略2023」をスタートさせます。その重点プロジェクトに「地元中小企業就職者に対する奨学金返還支援」を掲げました。

ふるくぼ和子議員「共産党市議団は、給付型（返還不要）奨学金

制度の創設とあわせ、奨学金の返還支援も求めてきた。歓迎する。来年度の就職者から支給を開始するよう求める」

経済局長「現在、作業をすすめている。なるべく早い時期に運用を開始する」

豪雨防災 河川改修と排水機場

豪雨のたびにあふれ出す旧笹（ざる）川。水害対策は、切実です。市は、支流である谷地堀の拡幅工事を行っています。ところが29年前に着手したものの進捗率は、たったの3%。計画910mのうちの28mしか進んでいません。

嵯峨サダ子議員「年度ごとの予算が足りない。地球温暖化で西日本豪雨災害のような被害が仙台でおきない保証はない。県に対しても、旧笹川への排水機場の計画を具体化するよう求めよ」
建設局「県には求めていく」

国保料 引き下げの財源は十分

高すぎる国保料。しかし、2017年度、国保会計は33億7000万円の黒字でした。一般会計からの繰入金金を44億円も減らしたのに、上記の黒字です。

花木則彰議員「すごく大きな見込み違いだ。繰入金のうち市独自分

（法定外）を保険料算定の際に組み入れれば、保険料はどれくらい下げることができたか」
健康福祉局「ひとり当たり1万4600円となる」
花木議員「それだけ引き下げても予算通りいけたということだ」

保育所 移転地はまったくの不適地

吉成保育所の移転・建て替えの用地を9600万円を投じて購入する予算が提案されました。共産党は、反対しました。

ふるくぼ和子議員「移転予定地は、400台のトラックが出入りする物流倉庫に接する土地だ。365日24時

間稼働し、大量の積み下ろしで騒音は避けられない。さらに15mの建物で冬至の日は、10時になっても保育所の半分が日陰だ。南側に特養ホームも建つので、3時には保育所全体が陰になる。冬は、園庭の雪が融けず外で遊べない」

敬老乗車証 利用上限なくせば

敬老乗車証は、29億円の予算を組んだのに、使った額は27億5000万円（2017年度）でした。この乖離（かいり）は、利用額が減っているためです。なぜ減ったのか一

庄司あかり議員「敬老パスは、年間12万円までという利用上限があ

るため、上限に達すると外出が抑制される。予算は組んでいるので、利用上限を撤廃し、敬老パスの利用を増やしてはどうか。交通や経済への波及効果も大きい」

健康福祉局長「上限のあり方については、改めて検討する」

団地の高齢化 見守り体制

鶴ヶ谷団地では、高齢化が進んでいます。市営住宅の再整備事業は、第一市営住宅がほぼ終わり、第二市営住宅に移ります。

高見のリ子議員「再整備する第二市営住宅には、高齢者の見守りや支援を行うLSA室（ライフ・サポ

ート・アドバイザー）を設置し、さらにシルバーハウジングやグループホームなども検討してみてもどうか」

都市整備局「住宅は、高齢化率が高い。見守り支援のあり方と整備を検討する」

中小企業 店の売上のばす支援

2014年から2016年に、新たに起業した企業数は6600件。しかし廃業は、それを上回る8500件です。既存企業の事業継続を支援することは急務です。

庄司あかり議員「連坊商興会は薬師堂商店会といっしょに『オモシ

ロ街教室』に取り組み、パン屋さんによるパン作り教室、魚屋さんによる魚のおろし方教室など30の教室を開いている。商店と地域の人たちとが顔見知りになり、売上にもつながっている。個々の店の売上を支援する政策が重要だ」

水道 民営化は不利益。ローマ法王も

水道運営に営利企業の参入を認める水道法改定案が、国会で審議中です。自治体が水道施設を所有したまま、企業が運営権を得て、もうけていく仕組みです。

嵯峨サダ子議員「管理運営を民間企業に渡せば、水道水の安全性、

安定供給への危ぐ、料金値上げのリスクがある。世界では、水道の民営化で市民に不利益が生じ、途上国でも先進国でも公営に戻している。ローマ法王も『あらゆる水の民営化は、人権を犠牲にするもので容認できない』と言っている」



価値ある一年。

郡市政一年と日本共産党

「現場主義を大事にする郡市長に、市民の期待は、高まっている」(ふるくぼ和子議員の代表質疑)

日本共産党は郡市長と、ときには厳しい議論も交えながら、市民要求の実現に全力をあげてきました。郡市長が暮らしの声を実らせるたび、市民のなかに明るさと勇気が生まれ、それが市政をさらに前へと進めています。市民参加の政治へその一歩を踏み出しています。

実った市民の声

- 35人以下学級。まずは中学校で実現
- 復興住宅の家賃減免を継続
- 保育士処遇を改善。若手保育士へ月5000円助成など
- 石炭火力発電所の立地を抑制
- 地域公共交通の試験運行に補助
- 18歳未満の子どもがいる世帯の国保料を減免
- 新入学学用品費の支給時期を入学前に改善
- 特別支援教育の支援員・補助員を増員
- 子ども食堂の運営と開設に助成
- 災害援護資金の少額返済
- スクールソーシャルワーカーの増員
- 産婦健診へ助成
- 不登校相談員を配置



郡和子市長



高見 のり子 (宮城野区)

お金がなくてまともに食事がとれない家庭と子ども。「役に立てれば」。そんな思いにかられ「子ども食堂」を実践してきた。行政の援助を訴え、今年度、支援の予算がついた。今議会では、榴岡公園に刻まれた旧陸軍部隊の戦争の歴史にスポットをあてた。平和と子どもの貧困解決に、心血を注ぐ。



嵯峨 サダ子 (太白区)

一般質問で取り上げた、高層ビルの建設ラッシュ規制、水害を防ぐ地下排水の整備。天空と地中の壮大な都市政策の提言だ。その都市のまん中で、生活に苦悩する人たちを見つめている。大震災の被災者のもとに足を運び、なまの声を市政に直結させてきた。復興住宅の家賃減免継続は、こうして実現したもの。



すげの 直子 (青葉区)

議員になって以来、訴え続けてきたエアコンのない教室のこと。「先生たちが早朝、子どもたちの登校前に教室の窓を開けに走り回っている」。今議会では、全会派が取り上げるまでになった。毎議会、市民が言葉にしきれない胸の内を伝えてきた。共鳴は立場の違いを越え、たくさんの施策が実った。



庄司 あかり (若林区)

重度の障害児などが利用する放課後デイサービスが2カ所増えた。保護者と求めてきたものだ。親や看護師の付き添いがなければ、生きていけない命。その命を輝かせる提言を、今議会でも行った。一歳の娘を育てながらの議会活動だ。子育てや暮らしの要望解決に奔走する毎日は、母になった輝きがある。



ふるくぼ 和子 (泉区)

子どもの人権について、整然と訴える理論家。そして、子どもの味方となって猛烈にがんばる一途さがある。困窮する家庭への新入学学用品費の支給。入学前に支給されないため、制服のおさがりを求め奔走する先生たち。その姿を昨年、議会で訴えた。郡市政は今年から、入学前支給に踏み切った。



花木 則彰 (青葉区)

宮城地区、秋保地区を走る愛子観光バス、タケヤ交通にも敬老乗車証を使えるようにする課題。「区役所で回数券を交付すればできる」(決算委員会)。行政が「できない」と言うことを、いかにできるようにするか、知恵をしばる。35人以下学級をはじめ、たくさんの分野で政策実現のレールを敷く。

市政へのご要望をお寄せください。

仙台市青葉区国分町3-7-1 日本共産党仙台市議団 TEL 022-214-8786 メール jcpsendai@nifty.com